

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年1月26日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	12月の価格情報		1月の価格情報			2月 平均価格	生育及び価格の2月上旬までの見通し				
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額							
		下旬		上旬	中旬						
葉 茎 菜	キャベツ 	66.30	85	88.05	115	108	88.05	・入荷見込量: 12,710 (100) ・主産地: 愛知 (55)、千葉 (22)、神奈川 (13)	・愛知産は、一部のほ場で病害が発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、最近の低温などにより小玉傾向で、現在は平年より少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、低温と小雨により小玉傾向で、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。		
		69.92	81	83.73	102	95	83.73	・入荷見込量: 3,600t (102) ・主産地: 愛知 (56)、和歌山 (7)、大阪 (6)、兵庫 (6)	・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれるものの、主力の愛知産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	218.22	257	229.99	252	196	229.99	・入荷見込数量: 5,480 (100) ・主産地: 千葉 (33)、埼玉 (25)、茨城 (17)、群馬 (12)、輸入 (2)	・千葉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、一部で病害も見られるが、太りも良く生育は順調であることから、引き続き平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は、低温により葉の一部に変色が見られるが、全体的には生育は順調で、現在は平年よりやや多めの出荷であるが、今後は平年並みの出荷の見込み。		
		444.77	513	450.51	582	428	450.51	・入荷見込数量: 200t (89) ・主産地: 徳島 (26)、奈良 (15)、高知 (13)、三重 (9)、香川 (8)、大阪 (7)	・千葉産、茨城産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。		
	はくさい 	36.65	35	61.12	38	34	61.12	・入荷見込量: 14,820t (102) ・主産地: 茨城 (82)、群馬 (9)	・茨城産は、生育は順調で豊作基調となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷となる見込み。	・茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		53.29	55	68.70	56	49.00	68.70	・入荷見込量4,200t (97) ・主産地: 愛知 (21)、宮崎 (19)、和歌山 (14)、熊本 (12)、岡山 (7)、茨城 (6)			
	ほうれんそう 	350.10	612	307.66	709	541	307.66	・入荷見込量: 1,520t (100) ・主産地: 群馬 (26)、茨城 (24)、千葉 (20)、埼玉 (19)	・群馬産は、最近の低温の影響で生育が停滞しているため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調で作付面積の増加もあり、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、最近の低温により生育の停滞が見られたものの、徐々に回復し、現在は生育及び品質ともに良好で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		419.76	681	341.25	727	539	341.25	・入荷見込量: 550t (89) ・主産地: 徳島 (43)、福岡 (36)、群馬 (9)	・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産、茨城産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。		
	レタス (結球) 	233.85	355	233.85	347	243	233.85	・入荷見込量: 6,760t (100) ・主産地: 静岡 (33)、兵庫 (12)、香川 (11)、千葉 (7)、熊本 (6)、福岡 (6)	・静岡産は、一部のほ場で病害が発生していることや10月の台風の影響により定植に遅れが出たほ場からの出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。兵庫産は、生育の遅れが多少見られるが概ね順調で、現在は平年よりやや多めの出荷であるが、今後は平年並みの出荷の見込み。香川産は、全般的に天候に恵まれ、病害虫の発生もなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	・静岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、兵庫産及び香川産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		226.75	366	226.75	365	245	226.75	・入荷見込量: 930t (96) ・主産地: 兵庫 (47)、徳島 (17)、香川 (12)、長崎 (9)、和歌山 (6)			
たまねぎ 	76.15	78	76.15	82	85	76.15	・入荷見込量: 8,840t (105) ・主産地: 北海道 (84)、輸入 (5)	・北海道産は、選別・調製を終えて倉庫に保管されて、計画的な出荷が行われており、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。	・北海道産の計画的な出荷が見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き概ね平年並みに推移する見込み。		
	76.15	85	76.15	91	89	76.15	・入荷見込量: 3,300t (101) ・主産地: 北海道 (58)、兵庫 (35)				
果 菜	きゅうり 	370.98	547	370.98	411	384	370.98	・入荷見込量: 4,840t (95) ・主産地: 宮崎 (40)、千葉 (22)、高知 (18)、茨城 (7)、埼玉 (4)	・宮崎産は、現在は平年並みの出荷であるが、最近の天候が安定して病害の発生もなく生育は順調であることから、今後は平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、年明け以降天候に恵まれ草勢・着果等生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、成り疲れなどにより肥大が停滞気味であるが、生育は概ね順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	・宮崎産、千葉産及び高知産の出荷が、平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年を下回って推移する見込み。	
		350.33	569	350.33	378	348	350.33	・入荷見込量: 1,000t (87) ・主産地: 宮崎 (44)、高知 (24)、徳島 (20)、愛媛 (7)			
	トマト (大玉) 	332.6	370	332.60	326	333	332.60	・入荷見込量: 5,220t (100) ・主産地: 熊本 (43)、愛知 (17)、栃木 (13)、静岡 (6)、千葉 (4)、宮崎 (4)	・熊本産は、病害虫の発生もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、現在は平年並みの出荷となっているが、今後は、11月下旬から12月上旬にかけての天候不順で花着きや着果に影響があったほ場からの出荷となることから、平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、最近天候に恵まれ病害虫の発生もなく、生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	・熊本産及び栃木産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
		311.06	344	311.06	322	326	311.06	・入荷見込量: 1,100t (98) ・主産地: 熊本 (70)、愛知 (10)、福岡 (6)			
	なす 	389.03	482	389.03	428	404	389.03	・入荷見込量: 2,360t (100) ・主産地: 高知 (61)、福岡 (20)、佐賀 (5)	・高知産は、無加温栽培の作型は低温により生育が一部停滞気味ではあるが、病害虫の発生もなく、生育は概ね順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、成り疲れや着果数が少ないため、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、最近気温が高く日照量も多く天候が安定しているため、今後は平年並みの出荷の見込み。	・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。	
		397.74	504	397.74	402	391	397.74	・入荷見込量: 330t (79) ・主産地: 高知 (39)、熊本 (26)、福岡 (20)、岡山 (9)			
	ピーマン 	344.39	576	551.24	671	661	551.24	・入荷見込量: 1,340 (100) ・主産地: 宮崎 (50)、高知 (21)、鹿児島 (17)、茨城 (11)	・宮崎産は、一部のほ場で成り疲れが見られるが、全般的に病害虫の発生もなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、生育は産地によりバラツキは見られるものの、全体的には順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	・宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれことから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。	
		353.61	558	513.91	591	602	513.91	・入荷見込量: 300t (73) ・主産地: 宮崎 (50)、高知 (25)、鹿児島 (8)			
	根 菜	だいこん 	64.33	68	79.03	80	68	79.03	・入荷見込量: 13,510t (100) ・主産地: 神奈川 (56)、千葉 (35)	・神奈川産は、最近の低温の影響で小ぶり傾向で平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の低温により多少の傷みが散見されるが、生育は順調で品質も良好なことから引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
			76.48	73	80.47	75	65	80.47	・入荷見込量: 2,950t (96) ・主産地: 徳島 (28)、鹿児島 (25)、長崎 (21)、和歌山 (17)	・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
にんじん 		100.82	97	101.05	82	70	101.05	・入荷見込量: 6,880t (105) ・主産地: 千葉 (81)、埼玉 (8)、茨城 (5)、輸入 (1)	・千葉産は、生育は順調で正品率が高く潤沢な出荷となっていることから平年よりやや多めの出荷となっており、今後は平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。	・千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷と見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	104.49	140	104.73	86	76	104.73	・入荷見込量: 2,200t (102) ・主産地: 鹿児島 (52)、長崎 (29)、鳥取 (12)				



種類	12月の価格情報		1月の価格情報			2月 平均価格	生育及び価格の2月上旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	上旬			中旬
いも	さといも	200.88	271	217.95	262	247	217.95	・埼玉産は、12月に収穫は終了し、現在は貯蔵品の計画的な出荷が行われており、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、これまでが前進出荷であったことや大玉の発生が少ないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷と見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。
	ばれいしょ	207.20	300	219.65	262	214	219.65	
も	ばれいしょ	88.17	85	88.17	91	91	88.17	・北海道産は、貯蔵ものの出荷であり、引き続き平年並みの出荷の見込み。長崎産は、秋作型と抑制栽培の収穫はほぼ終了して出荷されており、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・出荷の大宗を占める北海道産の貯蔵ものの計画的な出荷が見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		88.17	79	88.17	84	85	88.17	

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、青字ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもは前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

家計調査によると、11月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5.291gで前年比109%、購入金額は、1,704円で同94%となった。  
また、小売物価統計によると、12月のキャベツの小売価格は、137円で過去5か年平均比84%、レタスは、506円で同97%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を下回った。

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年		前年比	購入金額(円)	前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比			
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103	1,775	106	
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105	
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	100	1,878	106	
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	97	1,887	104	
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	98	1,993	107	
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	95	1,976	104	
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	102	1,770	99	
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	97	1,846	106	
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	104	2,035	109	
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	5,455	104	1,973	102	
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	5,291	109	1,704	94	
12月	5,142	1,882	5,152	2,093					

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」  
注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

### 主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	147	108	317	321	101
7月	153	171	112	322	358	111
8月	140	151	108	415	446	107
9月	149	228	153	506	871	172
10月	158	209	132	449	378	84
11月	162	122	75	421	323	77
12月	162	137	84	521	506	97

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。  
2 平成26年12月の値は、12月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

12月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比73%(中国は同83%)の2万7千トン、にんじんは、同56%(中国は同56%、米国は同97%)の5千トン、ねぎは、同97%(中国は同97%)の4千7百トンとなった。たまねぎ、にんじん、ねぎ共に前年を下回った。

区分	平成24年		平成25年		平成26年11～11月		平成26年11月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	814,225	107	50,622	73
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,639,316	97	129,956	83
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	2,453,541	100	180,578	80
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	1,283,184	101	110,957	85
中国産シェア	51		52		52		61	

資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

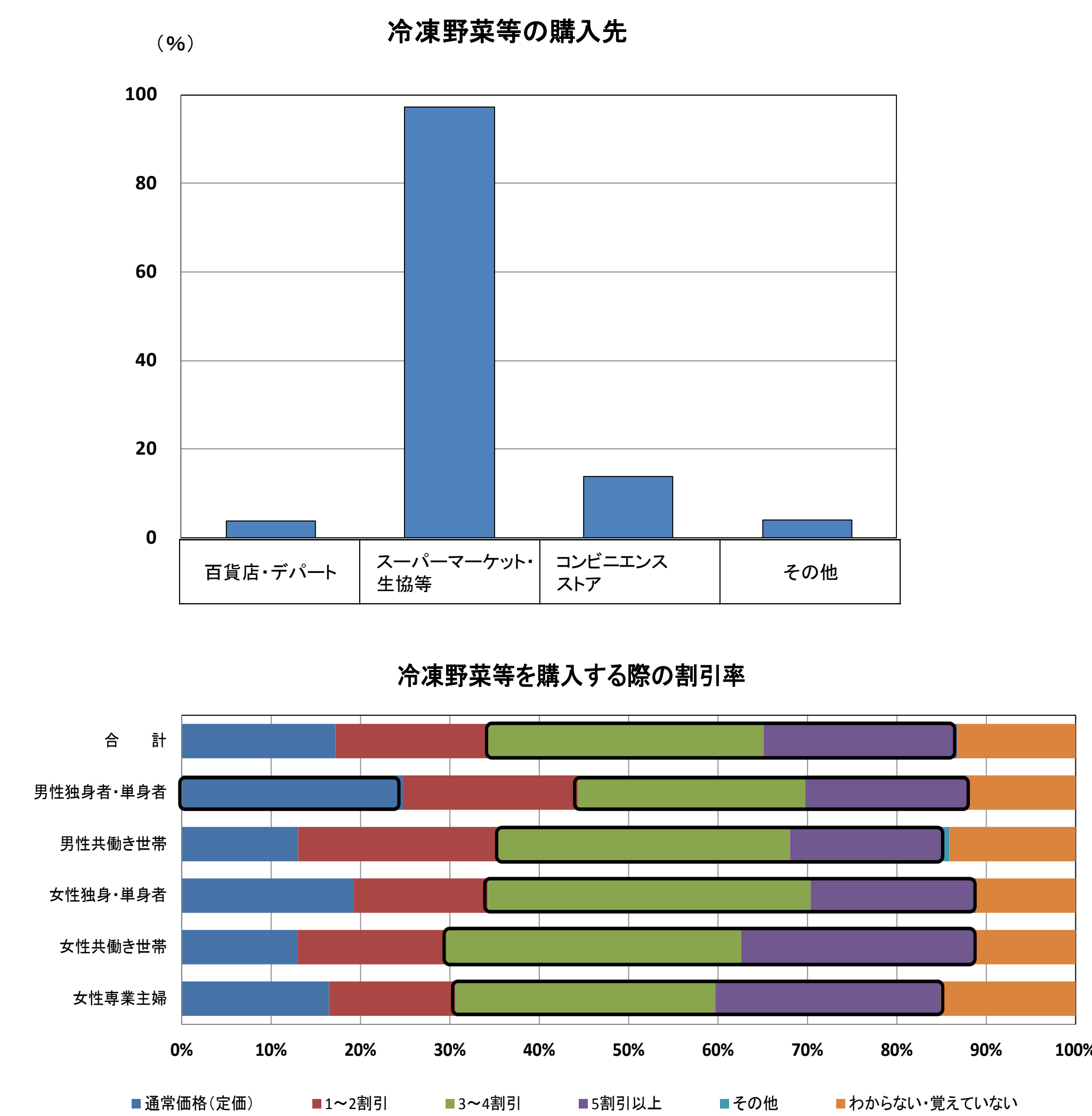
### 主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成25年12月(A)	平成26年12月(B)	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	36,753
	中国	28,361	23,598	83
	米国	8,348	3,057	37
にんじん	合計	9,069	5,057	56
	中国	8,977	5,001	56
	米国	43	42	97
ねぎ	合計	4,833	4,677	97
	中国	4,830	4,675	97

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年12月は速報値。

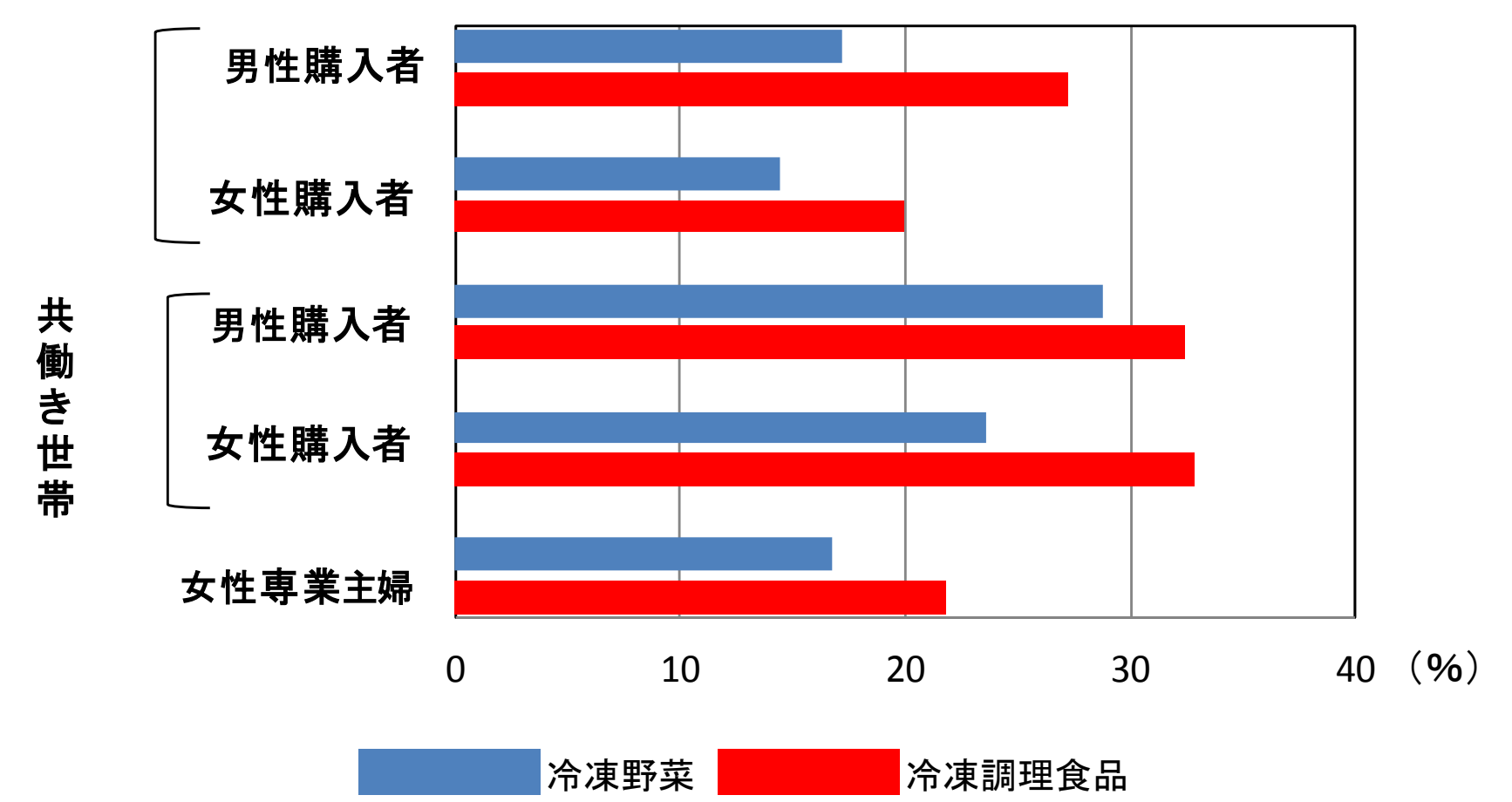
## 4 トピック — 平成26年度冷凍野菜等の消費動向調査(Web調査)の概要 —

近年、需要が堅調な冷凍野菜等(冷凍野菜及び原料に野菜を使用した冷凍調理食品)について、当機構が消費者を対象に昨年10月に実施した消費動向調査(Web調査)の概要を紹介する。  
冷凍野菜等の購入先(複数回答)は、回答者の約9割がスーパーマーケット・生協等と最も多く、次いでコンビニエンスストアは約1割、百貨店・デパートは1割未満であった。  
冷凍野菜の購入品目は、冷凍えだまめが約2割と一番多く、次いでミックスベジタブル、冷凍ほうれんそうとなっている。冷凍調理食品は、ギョーザが約3割と一番多く、次いでコロッケ、シューマイとなっている。  
冷凍野菜等を週に1回以上購入する者を世帯属性別にみると、いずれも冷凍調理食品の購入頻度が高く、特に共働き世帯では、女性、男性ともに3割を超えている。  
冷凍野菜等を購入する際の割引率をみると、全体では、3割引以上で購入する者が5割を占めている。属性別では、男性単身者・単身者は、定価での購入者の割合が2割と他の属性に比べて高い一方、女性は、単身、共働き、専業主婦を問わず、男性に比べて3割引以上の購入割合が高い傾向にある。  
冷凍野菜等を購入する際に重視する点は、価格が7割強を占めているが、国産・外国産の別や味についても、それぞれ約6割、5割を占めている。また、冷凍野菜等を購入する際には約9割の者が原産国をチェックすると回答している。  
冷凍野菜等は、調理の簡便性、利便性等もあって引き続き堅調な需要が見込まれており、消費者の購入基準も価格、原産国、味が重視されていることから、国内産地では、これらの特徴も見極めつつ、差別化された特徴ある製品の安定的な供給体制の強化が求められている。  
(本調査はこちらから  
<http://www.alic.go.jp/content/000112123.pdf>)

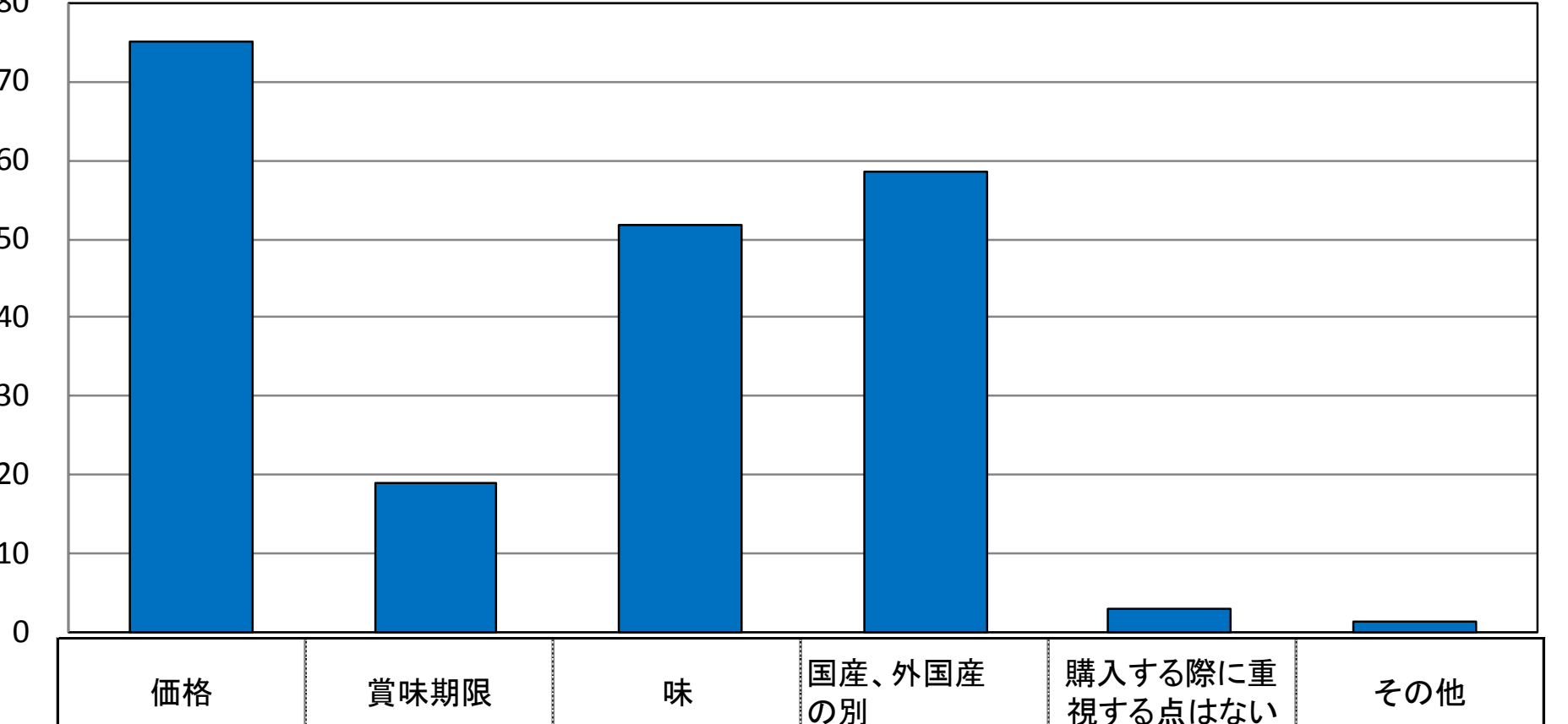


資料：機構「平成26年度冷凍野菜等の消費動向調査(Web調査)」

### 冷凍野菜等の購入頻度(週1回以上購入者の割合)



### 冷凍野菜等を購入する際に重視する点



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。